令和８年度日米共同統合演習（実動演習）について（ＫＳ２７）

【演習の目的】

各種事態における日米共同対処及び自衛隊の統合運用について演練・検証し、日米共同統合運用能力の維持・向上を図るために実施します。

【演習の沿革】

日米共同統合演習は昭和６０年度から開始され、概ね毎年、実動演習と指揮所演習を交互に実施しています。本年度は実動演習であり、今回で１８回目の実施となります。

【演習の実施場所】

日本周辺海空域、自衛隊施設、米軍基地等において、様々な訓練を実施します。

【演習の実施期間】

令和８年１０月１９日（月）から１０月２９日（木）までの間（本実施期間の前後 約１週間（基準）で準備期間及び撤収期間を設定）で予定しています。一部には夜間及び土日を含む演習となりますが、皆様の生活に支障がないよう十分に配慮いたします。

【演習の内容】

演習の目的に基づき、我が国防衛のための自衛隊及び米軍の行動を演練します。このため、陸上、海上、航空作戦及び統合輸送等の全てを包含した総合的な演習となります。我が国防衛のための自衛隊の即応性及び日米間の連携能力を向上させることを通じ、皆様の安全・安心確保に資することができるものです。なお、本演習の一部に同志国軍が参加（オブザーバー含む。）します。

令和８年度日米共同統合演習（実動演習）について

水陸両用作戦

空挺作戦

海上作戦

統合防空ミサイル防衛

共同統合対艦戦闘

その他関連する訓練（日本全国各地）

- 情報戦
- 統合後方運用（輸送・補給、衛生等）
- 陸上作戦
  重要施設等防護（基地警備等）
- サイバー攻撃等対処
- 宇宙作戦
- 統合電磁波作戦
- 統合通信

※　訓練期間中、航空機の移動に伴う燃料給油のため、日米の航空機が海上自衛隊鹿屋航空基地、奄美空港及び種子島空港及び徳之島空港を使用する予定です。なお、陸上自衛隊の航空機に限り、奄美駐屯地及び瀬戸内分屯地も使用する予定です。

※　また、演習前後の期間において、自衛隊の航空機が鹿児島空港を利用します。

令和８年度日米共同統合演習（実動演習）の鹿児島県内における訓練について

本演習において鹿児島県内で実施する訓練は、

① 統合通信訓練
② 共同統合対艦戦闘、統合防空ミサイル防衛（高射部隊等の機動展開訓練）
③ 水陸両用作戦（着上陸訓練、対機雷戦・水際障害処理訓練）
④ 陸上作戦（対着上陸戦闘訓練等、情報収集訓練、訓練準備等、協同対空戦闘訓練、統合強制進入作戦（目標捜索訓練））
⑤ 統合電磁波作戦訓練
⑥ 統合後方運用（輸送・補給/衛生/その他）
⑦ 機動分散運用（大型機の一時展開）
⑧ 重要施設等防護（共同／協同基地等警備訓練、滑走路（被害）復旧訓練、立入検査訓練）

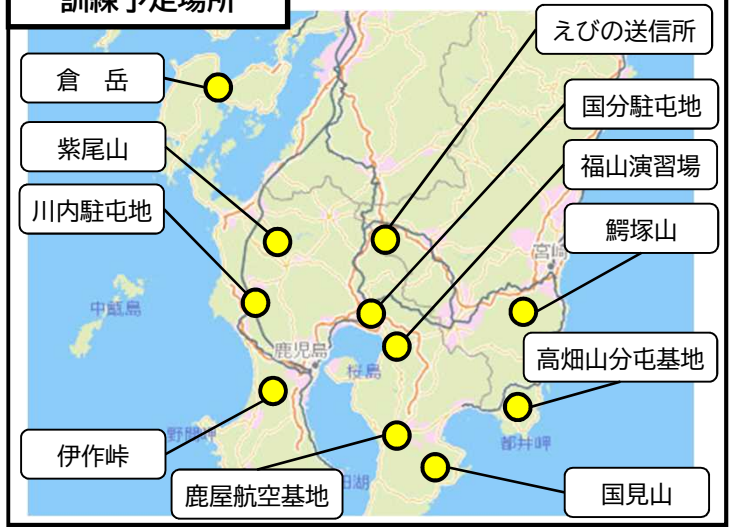
を予定しています。訓練内容は調整中であり、今後調整により変更の可能性があります。

熊本県、宮崎県及び鹿児島県で実施を検討している訓練内容
①　統合通信訓練

　統合通信訓練は、通信回線を構成する訓練です。本訓練のため、陸上自衛隊の通信部隊が熊本県、宮崎県及び鹿児島県に展開し、統合通信回線を構成いたします。
　訓練では実際に電波を発射いたしますが、住民の皆様の生活、民航機の運航等に影響しない周波数を使用します。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）～１０月２７日（火）
【参加部隊】陸上自衛隊　西部方面システム通信群　　２１名（車両：１０両）
　　西部方面後方支援隊　　８名（車両：　４両）
【実施場所】
熊本県　：倉岳（天草市）
宮崎県　：鰐塚山（宮崎市）、えびの送信所（えびの市）、空自高畑山分屯基地
鹿児島県：紫尾山（薩摩郡さつま町）、伊作峠（日置市）
　　国見山（肝属郡肝付町）、海自鹿屋航空基地、陸自川内駐屯地、陸自国分駐屯地、
　　陸自福山演習場

訓練予定場所



訓練イメージ

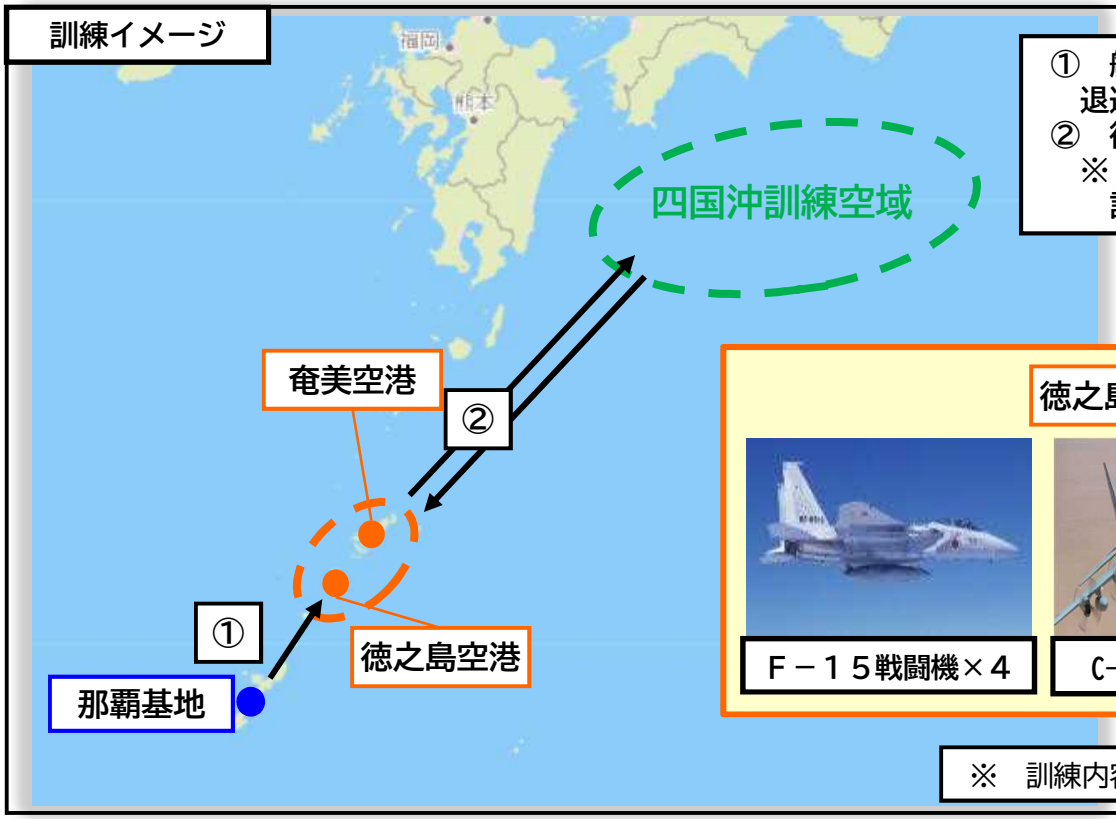
【無線搬送端局（中継）装置１号】

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
②　共同統合対艦戦闘（戦闘機部隊等の機動展開訓練）

航空自衛隊の戦闘機部隊等が四国沖で実施される共同統合対艦戦闘に参加し、それぞれの対処要領について演練します。あわせて、航空自衛隊の基地が使用できない事態を想定し、戦闘機が徳之島空港及び奄美空港に一時的な展開を計画しています。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）～１０月２９日（木）
【参加部隊】航空自衛隊　南西航空方面隊　第９航空団
【奄美空港展開】人員約６０名　Ｆ−１５戦闘機×４機（最大）　、Ｔ－４練習機×１、車両器材等
【徳之島空港展開】人員約６０名　Ｆ−１５戦闘機×４機（最大）、Ｔ－４練習機×１、車両器材等

訓練イメージ



① 航空自衛隊の那覇基地から徳之島空港及び奄美空港に一時退避し、燃料補給を実施
② 徳之島空港及び奄美空港から四国沖に進出し、訓練に参加
※ 期間中に３日間程度、１日１回（最大４機）の飛行を計画しています。なお、夜間の飛行は計画致しません。

徳之島空港　奄美空港

Ｆ－１５戦闘機×４

C-130H又はC-2輸送機

ﾌﾞﾗﾀﾞｰﾀﾝｸ及び給油装置

※　訓練内容詳細については、調整中であり変更の可能性があります。

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
②　統合防空ミサイル防衛（高射部隊等の機動展開訓練）

航空自衛隊の高射部隊が、統合防空ミサイル防衛に係る航空自衛隊の任務遂行能力の向上のため、奄美駐屯地及び下甑島分屯基地において機動展開訓練を実施します。なお、実弾の使用はありません。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）～１０月２９日（木）　※前後約１週間程度の準備・撤収期間を設定
【参加部隊】
奄美駐屯地　　航空自衛隊：北部航空方面隊　北部高射群　第１１高射隊、人員約３０名、車両約２５両　※展開地調整中
　　陸上自衛隊：高射教導隊、第５高射特科隊、人員約３０名、車両１５両
下甑島分屯基地　航空自衛隊：西部航空方面隊　第５航空団、人員約３０名、車両約１５両

訓練予定場所

訓練イメージ

機動展開訓練

協同警備訓練

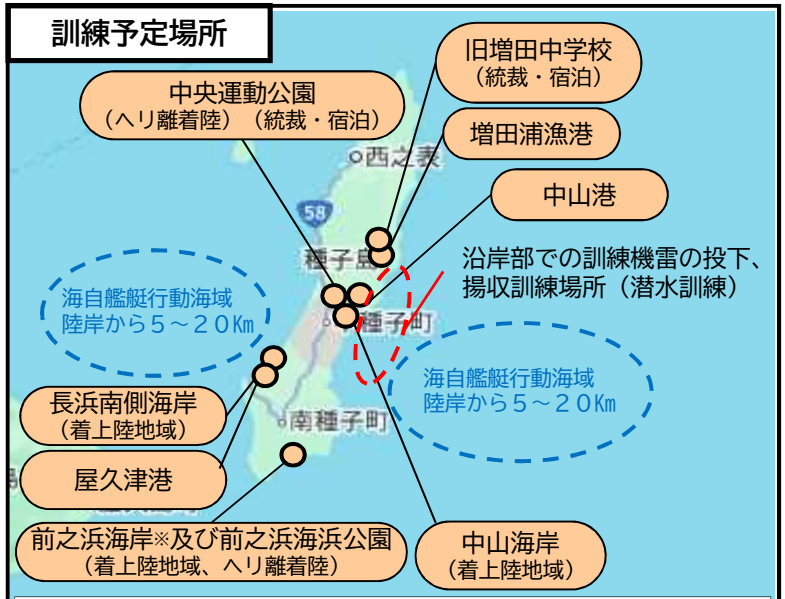
※　訓練内容詳細については、調整中であり変更の可能性があります。

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
③　水陸両用作戦（着上陸訓練）

艦艇による海上機動及び航空機による空中機動と連携した着上陸訓練を中種子町及び南種子町の沿岸部で実施します。

【期　　間】令和８年１０月２４日（土）～１０月２９日（木）　　※前後約１週間程度の準備・撤収期間を設定
【参加部隊】陸上自衛隊：水陸機動団ゴムボート（CRRC）×２５艇、水陸両用車（AAV）×１２両、輸送航空隊（V-22）×９機、
西部方面隊回転翼機（AH-64D）×２機、第１ヘリコプター団（CH-47）×４機
※　前之浜海岸において、準備期間を含めた期間の中でＶ－２２による事前の離着陸訓練を予定しています。
海上自衛隊：両機戦群、護衛艦（ヘリコプター搭載護衛艦（DDH）、汎用護衛艦（DD）多用途護衛艦（FFM））×３隻、
輸送艦（LST）×２隻、掃海艦×１隻、エアクッション艇（LCAC）×２隻、
無人航空機（V-BAT）×１機　　※沖合で訓練をします。
【参加人員】陸上自衛隊：水陸機動団約４００名
※　昼間及び夜間訓練を実施します。人数・機数は現時点で計画されているものです。

訓練予定場所



※当日の海面状況によっては、使用させていただく可能性があります。

訓練イメージ

陸自
ゴムボート（CRRC）

陸自
水陸両用車（AAV）

陸自
回転翼機（AH-64）

陸自
回転翼機（V-22）

海自
護衛艦

海自
ｴｱｸｯｼｮﾝ艇（LCAC）

陸自
回転翼機（CH-47）

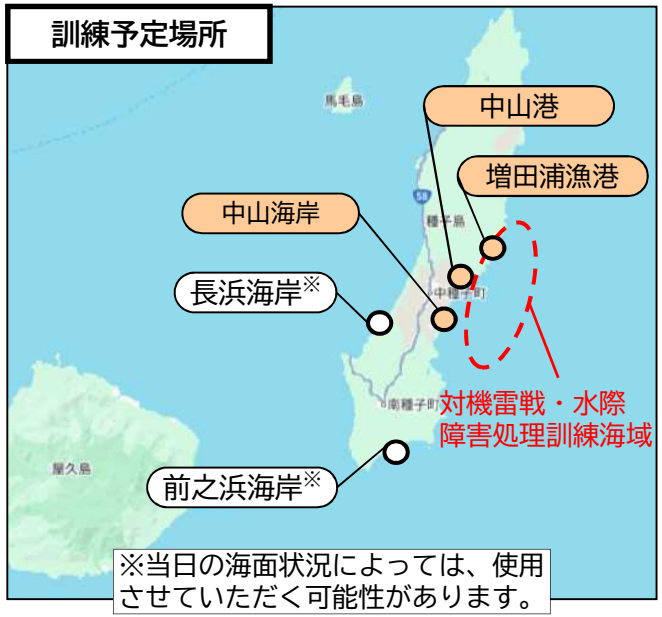
鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
③　水陸両用作戦（対機雷戦・水際障害処理訓練）

海上自衛隊及び米海軍の掃海艦等が種子島中種子町の中山海岸沖に進出し、訓練用機雷（ダミー）を種子島周辺海域に設置するとともに、陸上自衛隊、海上自衛隊及び米軍による共同の水陸両用着上陸における対機雷戦・水際障害処理の訓練を実施します。火気、爆発音を発生するものは使用しません。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）～１０月２９日（木）　※前後約１週間程度の準備・撤収期間を設定
【参加部隊】海上自衛隊：護衛艦（多用途護衛艦（ＦＦＭ））×１隻、掃海艦×１隻、水中処分班×１チーム（６名）
水中無人機（ＵＵＶ）×２機
陸上自衛隊：１個施設中隊（３０名程度）、小型無人機（ＵＡＶ）×２機、水陸機動団ゴムボート(CRRC)×５艇
米　　軍：ＣＴＦ７５（ＭＣＭ中隊）（１４名程度）、掃海艦×１隻

人数・機数は現時点で計画されているものです。

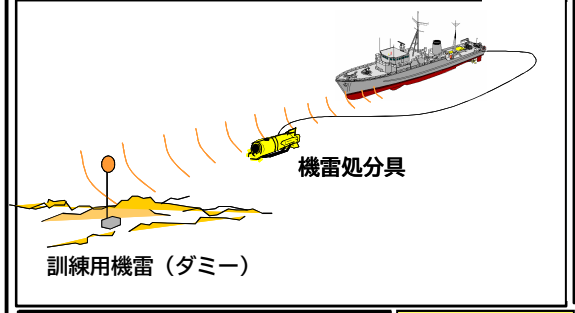
訓練予定場所



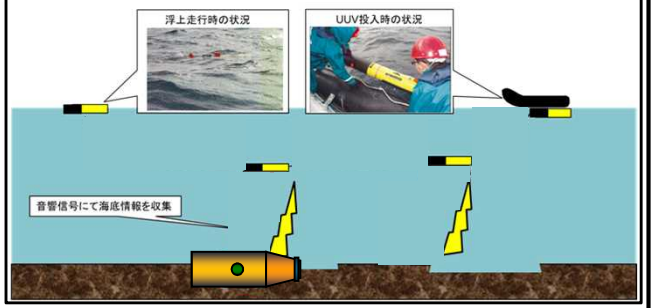
※当日の海面状況によっては、使用させていただく可能性があります。

訓練イメージ

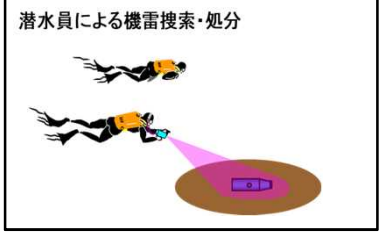
掃海艦艇による機雷掃討訓練



水中無人機（UUV）捜索訓練



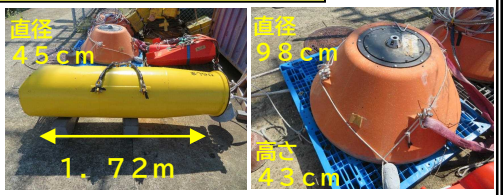
潜水員による機雷掃討訓練



掃海艦×１

護衛艦×１

訓練用機雷（ダミー）



重量：４６０ｋｇ　　重量：２５０ｋｇ

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
④　陸上作戦（対着上陸戦闘訓練等）

霧島演習場においては、日米の共同調整所における指揮機関訓練、対着上陸戦闘訓練、対艦戦闘訓練、対空戦闘訓練、兵站訓練（空中投下を含む。）及び衛生訓練を実施するとともに、陸上自衛隊航空機及び米海兵隊航空機の駐機、燃料補給、整備等を実施します。
訓練部隊の移動のため、日米の航空機及び船舶により、鹿児島空港及び鹿児島港を使用する予定です。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）～２９日（木）　※前後約１週間程度の準備・撤収期間を設定
【参加部隊】陸上自衛隊：約１４００名（北部方面隊、第２特科団、第２高射特科団、西部方面システム通信群、西部方面航空隊、西部方面後方支援隊、補給本部等、１２式地対艦誘導弾、１０式戦車、１６式機動戦闘車、０３式中距離地対空誘導弾、９３式近距離地対空誘導弾、８７式自走高射機関砲、８１式短距離地対空誘導弾、ＵＨ－１×８機程度、ＣＨ－４７×８機程度、ＵＨ－６０×２機程度、ＡＨ－６４×２機程度、Ｖ－２２×４機程度等）
航空自衛隊：Ｃ－２、Ｃ－１３０等
米　　軍：約２５０名（第１２海兵沿岸連隊、ＭＡＤＩＳ、ＭＶ－２２×３機程度、ＬＣＵ、Ｃ－１３０等）

注：員数や参加部隊は現時点で計画中のもの

訓練予定場所

訓練イメージ

指揮機関訓練

対着上陸戦闘訓練

対艦戦闘訓練

対空戦闘訓練

兵站訓練（空中投下）

人員輸送

駐機・燃料補給・整備等

衛生訓練（患者後送）

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
④　陸上作戦（対着上陸戦闘訓練等）

種子島においては、各地域において下記の訓練を実施する予定です。
- ○　旧南界中学校において、日米の共同調整所を開設した指揮機関訓練
- ○　各生地において、対艦戦闘訓練、対空戦闘訓練障害構成訓練及び補給訓練等を実施
- ○　恵美之江運動公園においてスキャンイーグル及びストーカーを、中山海岸、前之浜海浜公園及び長浜海岸において１６式機動戦闘車等及びストーカーを使用した情報収集訓練
- ○　前之浜海浜公園、熊野海岸及び長浜海岸において、米海兵隊の浄水セットを使用した浄水訓練
- ○　熊野海岸から前之浜海浜公園までの沿岸部を使用した米ＣＲＲＣ（ゴムボート）を使用した補給訓練
- ○　前之浜海浜公園、中種子町立中央運動公園及び西之表ヘリポートにおいて、日米航空機を使用した離発着訓練

※１　訓練期間中、旧南界中学校、旧星原中学校、旧増田中学校、南種子町自然の家（体育館）、各公民館等の施設に宿泊予定である他、前之浜海浜公園等においてテント等により宿泊する予定です。
※２　対艦戦闘訓練、情報収集訓練において、実際に電波を発射しますが、住民のみなさまの生活、民航機の運行等に影響しない周波数を使用します。
※３　訓練期間中、訓練地域の移動のため、米軍の車両が公道を走行する予定です。
※４　訓練部隊の移動のため、日米の航空機が種子島空港、西之表ヘリポート、中種子中央運動公園及び前之浜海浜公園を、日米の船舶が西之表港及び島間港を使用する予定です。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）～２９日（木）　※前後約１週間程度の準備・撤収期間を設定
【参加部隊】陸上自衛隊：約１５００名（第８師団、陸上総隊、北部方面隊、東北方面隊、中部方面隊、第２特科団、第２高射特科団、第５施設団、施設教導隊、西部方面航空隊、西部方面後方支援隊、西部方面衛生隊、１６式機動戦闘車、１２式地対艦誘導弾、８８式地対艦誘導弾、中距離地対空誘導弾、中距離多目的誘導弾、短距離地対空誘導弾、近距離地対空誘導弾、ＡＤＣＣＳ（対空戦闘指揮統制システム）、水際地雷敷設装置、無人偵察機（スキャンイーグル）、マリンレーダ、捜索標定レーダ（ＳＲＵ）、小型ドローン、野外入浴セット、ＣＨ－４７×８機程度、ＵＨ－６０×２機程度、ＡＨ－６４×２機程度、ＯＨ－１×１機程度）
航空自衛隊：Ｃ－２、Ｃ－１３０
米　　軍：約４００名（米海兵隊、ＮＭＥＳＩＳ、ＨＩＭＡＲＳ、無人航空機（ストーカー）、フルノレーダ、ＭＶ－２２×３機程度、Ｃ－１３０×３機程度、ＬＣＵ（汎用揚陸艇）、ＥＰＦ（遠征高速輸送艦））

訓練予定場所

※ ：日米共同で使用予定

番号	使用場所	訓練内容
①	旧南界中学校	指揮機関訓練
②	沖ヶ浜田緑地公園	対艦戦闘訓練（12式地対艦誘導弾、88式地対艦誘導弾、NMESIS、HIMARS、SRUレーダ等を配置）
③	天女ヶ倉公園	
④	安納球場	
⑤	犬城海岸展望所	
⑥	熊野海岸	
⑦	前之浜海浜公園	
⑧	種子島空港南広場	
①	旧南界中学校	
⑨	長谷展望公園	
⑩	南種子町テニスコート駐車場	
④	安納球場	対空戦闘訓練（中距離地対空誘導弾、短距離地対空誘導弾、近距離地対空誘導弾、ADCCS、MADIS、TPS－80等を配置）
⑪	南種子町立健康公園	
⑨	長谷展望公園	
⑫	西之地区運動場	
⑬	宇宙ヶ丘公園	
④	天女ヶ倉公園	情報収集訓練（スキャンイーグル、ストーカー、16式機動戦闘車、各レーダ等を配置）
⑭	中山海岸	
⑥	熊野海岸	
⑮	恵美之江運動公園	
⑦	前之浜海浜公園	
⑯	増田浦漁港	
⑰	長浜海岸	
⑬	宇宙ヶ丘公園	
⑥	熊野海岸	障害構成訓練
⑰	長浜海岸	
⑦	前之浜海浜公園	
⑥	熊野海岸	浄水訓練
⑦	前之浜海浜公園	
⑰	長浜海岸	
⑥	熊野海岸	補給訓練
⑦	前之浜海浜公園	
⑱	西之表ヘリポート	ヘリ離発着訓練
⑲	中種子町立中央運動公園	
⑦	前之浜海浜公園	

訓練イメージ

指揮機関訓練

対艦戦闘訓練

対空戦闘訓練

障害構成訓練

無人偵察機（スキャンイーグル）

米軍無人航空機（ストーカー）

16式機動戦闘車

NMESIS

MADIS

HIMARS

TPS－80

CH－47

CH－53

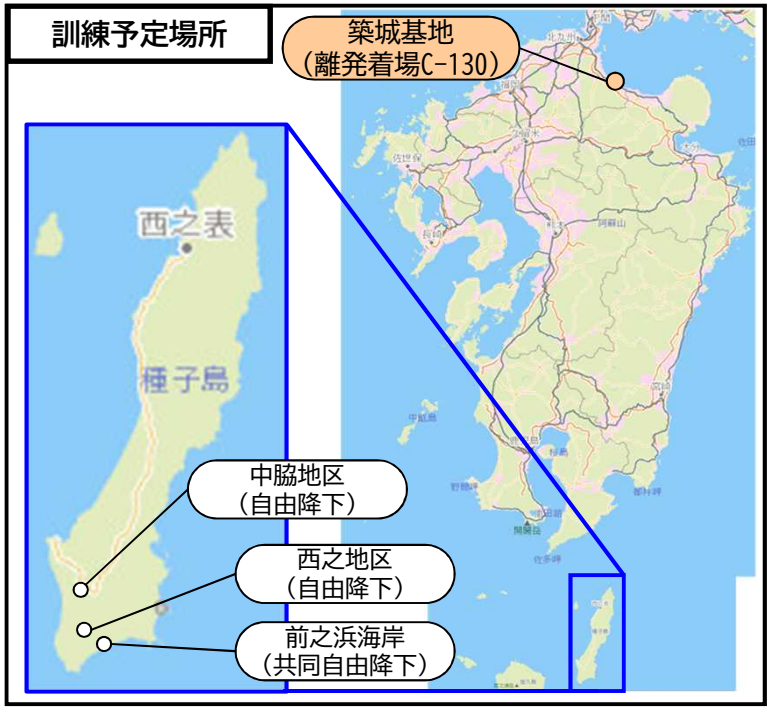
MV－22

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
④　陸上作戦（対着上陸戦闘訓練等）

陸上自衛隊の回転翼機（ＣＨ－４７×１）からの昼夜間の米海兵隊と共同自由降下訓練及び航空自衛隊の輸送機（Ｃ－１３０Ｈ×１）からの昼夜間の米海兵隊と共同自由降下訓練を実施する計画です。
なお、訓練間、武器（小銃等）は携行しますが、空包等は使用しない予定です。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）～２２日（木）：共同自由降下（ＣＨ－４７）
令和８年１０月２４日（土）　　：共同自由降下（Ｃ－１３０）
【参加部隊】陸上自衛隊：第１空挺団（約１０名）、第１ヘリコプター団（ＣＨ－４７×１）
航空自衛隊：第１輸送航空隊（Ｃ－１３０Ｈ×１）
第３海兵偵察大隊（約２０名）

訓練予定場所



訓練イメージ

自由降下

Ｃ－１３０

ＣＨ－４７

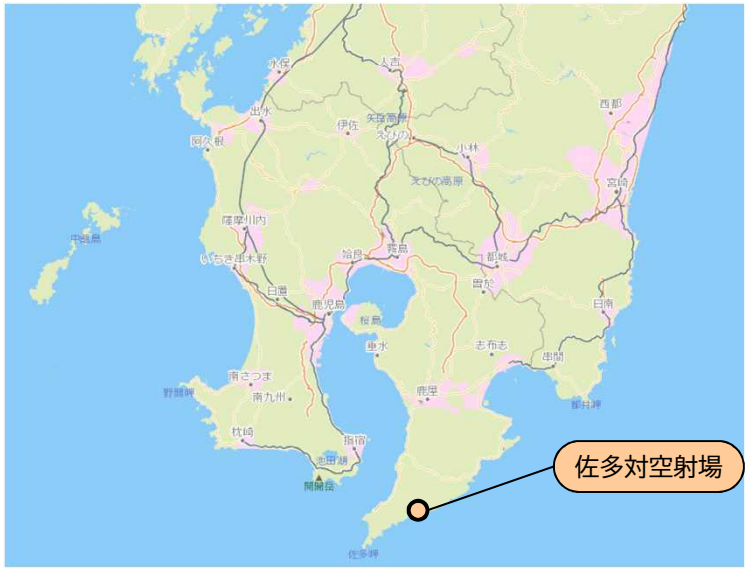
鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
④　陸上作戦（情報収集訓練）

佐多対空射場において、陸上自衛隊の無人偵察機（スキャンイーグル）を使用した情報収集訓練を実施する計画です。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）～２９日（木）　※前後約１週間程度の準備・撤収期間を設定
【参加部隊】陸上自衛隊：約４０名（第４師団、第８師団、無人偵察機（スキャンイーグル））

注：員数や参加部隊は現時点で計画中のもの

訓練予定場所



訓練イメージ

無人偵察機（スキャンイーグル）

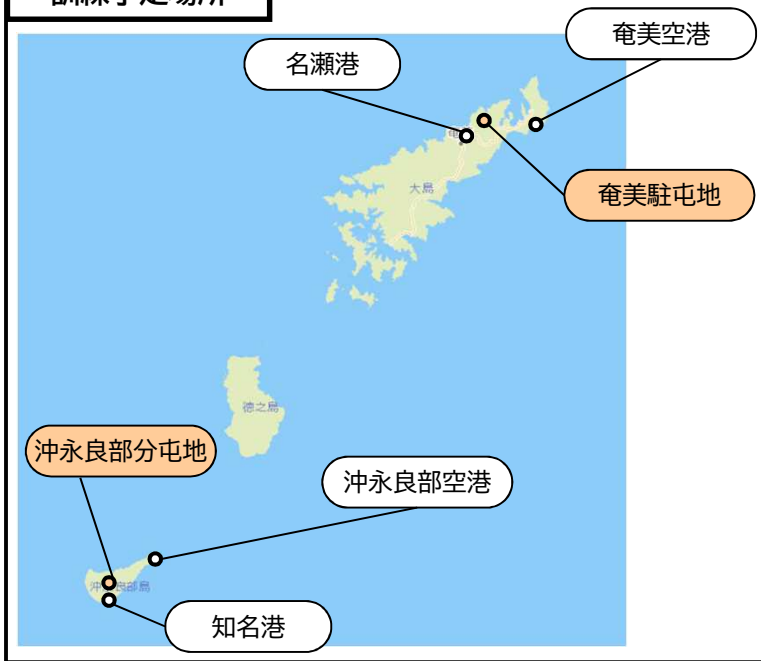
鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
④　陸上作戦（協同対空戦闘訓練）

陸上自衛隊奄美駐屯地及び航空自衛隊沖永良部分屯基地においては、各種ミサイル・ＵＡＶの対処要領を演練するため、非実射による協同対空戦闘訓練を実施する計画です。
また、各訓練地域への装備品等の輸送のため、名瀬港、知名港、奄美空港及び沖永良部空港を使用する予定です。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）～２９日（木）　※前後約１週間程度の準備・撤収期間を設定
【参加部隊】陸上自衛隊：約３０名（高射教導隊、北部方面隊、東北方面隊、東部方面隊等、０３式中距離地対空誘導弾等）
航空自衛隊：約３０名（北部高射群、第１１高射対、ＰＡＣ－３）

注：員数や参加部隊は現時点で計画中のもの

訓練予定場所



訓練イメージ

03式中距離地対空誘導弾

ＰＡＣ－３

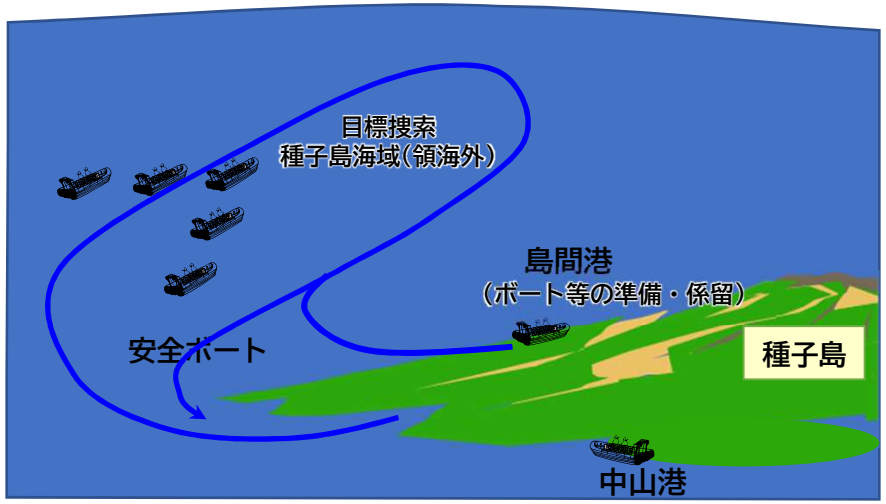
鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
④　陸上作戦（目標捜索訓練）

陸上自衛隊及び豪軍（研修）の部隊が種子島周辺海域において目標捜索訓練を実施する計画です。その際、訓練用安全ボートは、島間港及び中山港から出港し、訓練終了後に各港へ帰港しボートを係留します。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）～１０月２６日（月）※前後約１週間程度の準備・撤収期間を設定。
【参加部隊】中山港：陸上自衛隊　陸上総隊（約２０名、車両９両程度、ボート２艇程度、ジェットスキー２艇）
島間港：海上自衛隊　自衛艦隊（約２０名、ボート２艇程度）
豪軍（２名程度（研修））

訓練予定場所

訓練イメージ



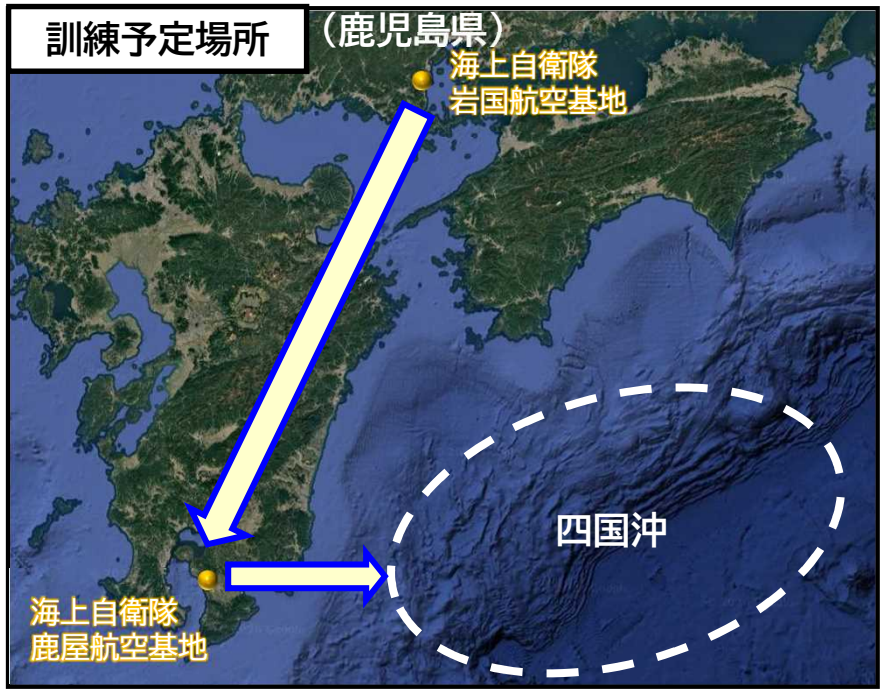
鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
⑤　統合電磁波作戦訓練

統合電磁波作戦訓練は、四国沖で実施される共同統合対艦戦闘等に連携して行われます。
本訓練のため、海上自衛隊鹿屋航空基地所属の航空機が四国沖で実施される共同統合対艦戦闘等に参加するとともに、海上自衛隊岩国航空基地の航空機が同じく本訓練に参加するため、鹿屋航空基地に事前に展開します。なお、本訓練では電波の収集のみであり、実際に電波を発射する予定はありません。

【期　　間】令和８年１０月２２日（木）～１０月２９日（木）（昼夜間飛行する（23：00～06：30の時間帯含む））

【参加部隊】			
海上自衛隊鹿屋航空基地所属	哨戒機「Ｐ－１」	×１機	約１０名
海上自衛隊岩国航空基地所属	多用機「ＵＰ－３Ｄ」	×２機	約２０名
	多用機「ＯＰ－３Ｃ」	×１機	約２０名
	多用機「ＥＰ－３」	×１機	約１５名

訓練予定場所



展開する主要装備品

海上自衛隊 哨戒機（Ｐ－１）

海上自衛隊 多用機（ＵＰ－３Ｄ）

海上自衛隊 多用機（ＥＰ－３）

海上自衛隊 多用機（ＯＰ－３Ｃ）

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
⑤　統合電磁波作戦訓練

統合電磁波作戦訓練は、四国沖で実施される共同統合対艦戦闘等に連携して行われます。
本訓練に参加するため、陸上自衛隊の電磁戦部隊が、種子島の各地域に機動展開し、電波状況の確認等を実施します。なお、実際に電波を発射する可能性はありますが、住民の皆様の生活、民航機の運航等に影響しない周波数を使用します。

【期　　間】
令和８年１０月２２日（木）～１０月２９日（木）
※前後約１週間程度の準備・撤収期間を設定

【参加部隊】
陸上自衛隊西部方面隊：約３０名（車両（ＮＥＷＳを含む。）×１０両）

【展開先】
- 喜志鹿崎灯台
- 天女ヶ倉公園
- 長谷展望公園
- サテライトオフィス南種子
- 中種子町立種子島中央体育館
- 旧南界中学校

展開する主要装備品

陸上自衛隊 NEWS※

※ NEWS：Network Electric warfare System
（ネットワーク電子戦システム）
電波の収集及び相手の指揮通信の無効化（低下）等を実施

訓練予定場所

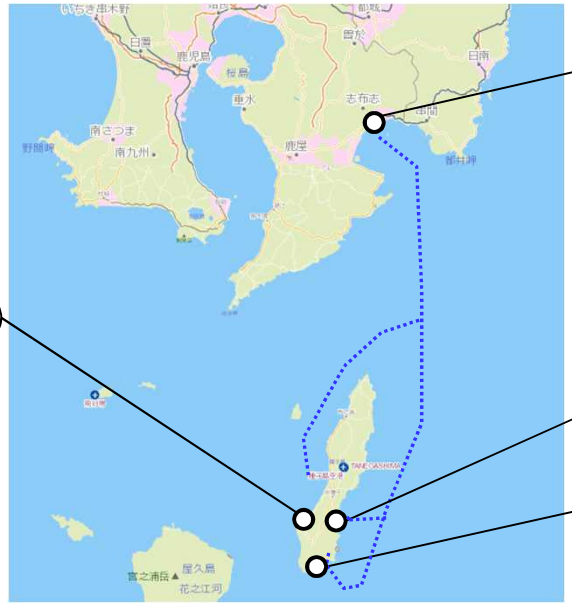
鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
⑥　統合後方運用（輸送・補給/衛生/その他）

志布志港及び種子島（熊野海岸又は前之浜海浜公園又は島間港）においては、米海兵隊のＡＬＰＶ（半潜水型無人艇）による補給品の輸送訓練を実施する計画です。
ＡＬＰＶは無人艇であり、米海兵隊が乗船したＬＳＶ（揚陸艦）が安全艇として同行する予定です。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）～２９日（木）　※前後約１週間程度の準備・撤収期間を設定
【参加部隊】陸上自衛隊：第８師団、７ｔトラック、フォークリフト等
米　　軍：第１２海兵沿岸連隊、ＡＬＰＶ（半潜水型無人艇）、ＬＳＶ（安全艇として同行）等

注：員数や参加部隊は現時点で計画中のもの

訓練予定場所



訓練イメージ

補給品の輸送

荷　役

ＬＳＶ（揚陸艦（安全艇））

ＡＬＰＶ（無人艇）

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
⑥　統合後方運用（輸送・補給/衛生/その他）

ＰＦＩ船舶等で北海道から九州まで部隊・装備品を輸送する訓練を実施します。

【期　　間】令和８年１０月５日（月）～１１月１０日（火）ナッチャンＮＥＯ
※奄美大島名瀬港の利用は往路１０月１１日（日）復路１０月３１日（土）～１１月１日（日）
徳之島平土野港の利用は往路１０月１２日(月）復路１０月３１日（土）
種子島西之表港の利用は復路１１月２日（月）
【参加部隊】陸上自衛隊：第５旅団
【使用装備品】輸送品:部隊車両、部隊人員
その他：ＰＦＩ船舶（ナッチャンＮＥＯ）
【実施地域】名瀬港、西之表港（その他、北海道、大分県の各港湾を使用）

訓練予定場所

訓練イメージ

ＰＡＣ３発射機（ＬＳ）

レーダー装置（ＲＳ）

８８式地対艦誘導弾

基地防空用地対空誘導弾

【PFI船舶：ナッチャンNEO】
往路にて１０月１１日（月）奄美大島名瀬港で北海道で乗船した陸自部隊を下船させます。

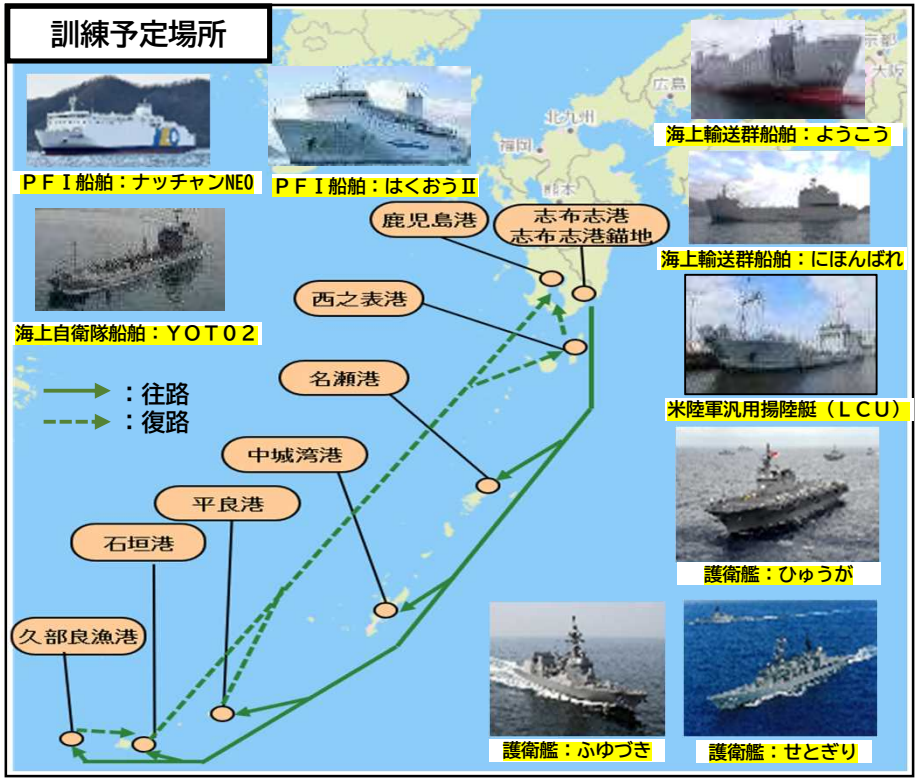
復路にて１１月１日（日）奄美大島名瀬港で同じく往路で下船させた、陸自部隊を乗船させ出港、１１月２日（月）種子島西之表で陸自部隊を乗船させ出港します。

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
⑥　統合後方運用（輸送・補給/衛生/その他）

ＰＦＩ船舶等で鹿児島（志布志港）から沖縄県まで部隊・装備品を輸送する訓練を実施します。

【期　　間】令和８年１０月１４日（水）～１０月１７日（土）訓練準備（補給、輸送物資、輸送部隊搭載等）
令和８年１０月１８日（日）～１０月２９日（木）輸送訓練（鹿児島～奄美及び沖縄各地）
鹿児島港の利用は、往路10月14日（水）～10月17日（土）、復路10月23日（金）～10月25日（日）※岸壁利用：ＰＦＩ船舶２隻
志布志港の利用は、10月16日（金）～10月18日（日）※岸壁利用：ようこう、米LCU、錨地利用：にほんばれ、ＰＦＩ船舶２隻、護衛艦３隻
10月28日（水）～10月29日（木）錨地利用：ようこう、にほんばれ、護衛艦３隻（調整中）
奄美大島名瀬港の利用は、10月19日（月）～10月21日（水）※岸壁利用：米ＬＣＵ
種子島西之表港の利用は、10月23日（金）～10月25日（土）※岸壁利用：ＰＦＩ船舶「ナッチャンＮＥＯ」
【参加部隊】陸上自衛隊：中央特殊武器防護隊、西部方面システム通信群、西部方面後方支援隊
航空自衛隊：中部航空施設隊、航空システム通信隊
【使用装備品】輸送品：部隊車両、部隊人員、２０フィートコンテナ×４３本（コンテナの中身：築城用資材）
その他：ＰＦＩ船舶（ナッチャンＮＥＯ、はくおうⅡ）海上輸送群船舶（ようこう、にほんばれ）
海上自衛隊船舶（油送船ＹＯＴ０２）（護衛艦×３隻：ひゅうが、ふゆづき、せとぎり）米陸軍（汎用揚陸艇）
【実施地域】鹿児島港、志布志港、志布志湾、奄美大島名瀬港（他沖縄県の港湾を使用）

訓練予定場所



訓練イメージ

小型業務車

トレーラー（電源車）

大型トラック＋通信装置

OH多重通信装置

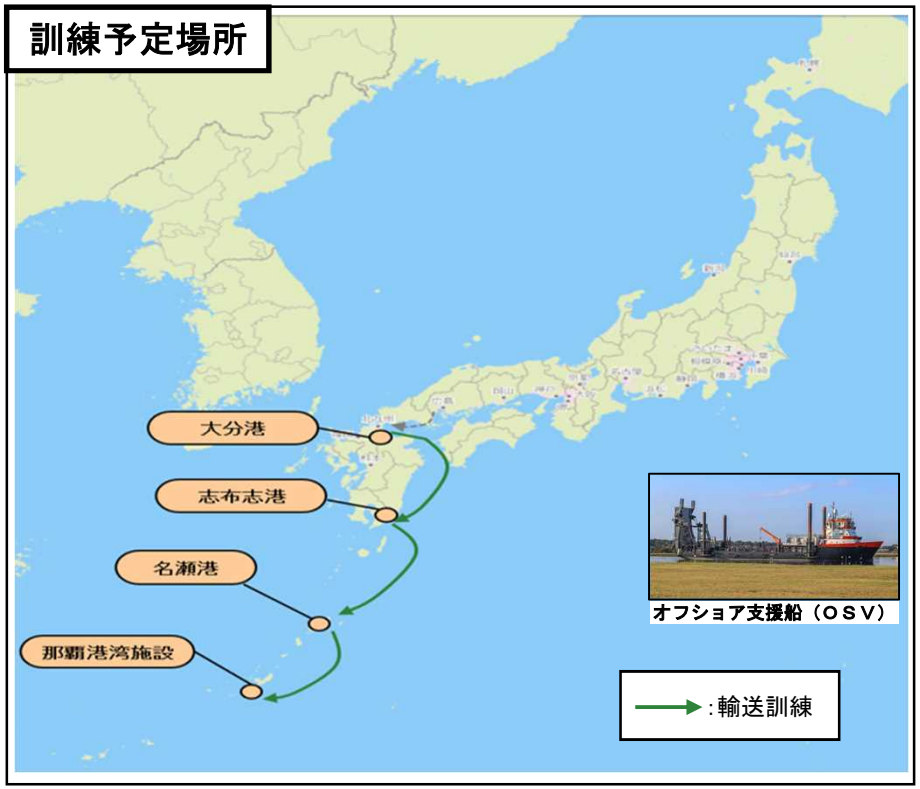
【PFI船舶：ナッチャンNEO・はくおうⅡ】
鹿児島港で補給及び輸送部隊を搭載、志布志湾へ移動し他船と合流後、南西方面へ　※志布志港の利用は錨地のみ
復路にてナッチャンNEOは、西之表港を経由し鹿児島港へ、はくおうⅡは鹿児島港へ入港し部隊を下船させます。
【海上輸送群：ようこう・にほんばれ】
志布志湾で他船と合同、南西方面へ
訓練終了後、10月28日志布志湾投錨、29日出港、帰投します。
【海上自衛隊：ＹＯＴ０２】
洋上で他船と合同、奄美大島沖で分離、以後海自計画の訓練に参加
【海上自衛隊：護衛艦：ひゅうが・ふゆづき・せとぎり】
志布志湾で、他船と合同、輸送部隊の先導及び護衛に従事
訓練終了後、10月28日志布志湾投錨、29日出港、帰投します。
※志布志港の利用は錨地のみ
【米陸軍：汎用揚陸艇】
志布志港で合同し、奄美大島沖で分離、以後奄美大島名瀬港へ陸上自衛隊のコンテナ輸送を実施

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
⑥　統合後方運用（輸送・補給/衛生/その他）

オフショア支援船（ＯＳＶ）で大分県大分港から鹿児島県（志布志港、名瀬港）を経由し沖縄県那覇市（那覇港湾施設）まで陸上自衛隊の物資をコンテナで輸送する訓練を実施します。

【期　　間】令和８年１０月１４日（水）～１０月２２日（木）
※鹿児島県志布志港の利用は１０月１７日（土）～１８日（日）
奄美大島名瀬港の利用は１０月１９日（月）～２１日（水）
【参加部隊】陸上自衛隊：中央輸送隊、陸自補給本部　米軍：米陸軍
【使用装備品】２０フィートコンテナ×２３本（コンテナの中身：糧食・水）
その他：オフショア支援船（ＯＳＶ）１隻
【実施地域】志布志港、奄美大島名瀬港（その他、大分県、沖縄県の港湾を使用）

訓練予定場所



訓練イメージ

【オフショア支援船（ＯＳＶ）】
10月14日（水）大分港入港後、陸上自衛隊の２０フィートコンテナ×２３本を搭載、10月16日（金）大分港を出港、10月17日（土）鹿児島県志布志港へ入港、他の日本側輸送部隊と合流し、10月18日（日）出港、10月19日（月）に鹿児島県奄美大島名瀬港に入港、大分港で搭載したコンテナ（１１本）卸下し、10月21日（水）同港を出港、10月22日（木）沖縄県那覇市米軍那覇軍港へ入港、残りのコンテナ（１２本）を卸下します。
沖縄県での卸下後、米軍貨物船は米軍計画で母港の神奈川県に帰投します。
コンテナには、ミサイル、砲弾等の弾火薬類、燃料等の危険物は搭載しておりません。

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
⑥　統合後方運用（輸送・補給/衛生/その他）

沖永良部島において、臨時の医療施設を開設し、傷病者の治療訓練を実施します。
また、沖永良部島分屯基地から那覇基地へ、回転翼を用いた後送訓練を実施します。

【期　　間】令和８年１０月１６日（金）～１０月２９日（木）※日程調整中
【参加部隊】航空自衛隊：航空総隊　人員約３０名、ＣＨ－４７Ｊ

訓練予定場所

※治療訓練場所：知名町民体育館を検討中

訓練イメージ

傷病者治療訓練

救急車を用いた後送訓練

回転翼を用いた後送訓練

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
⑦　機動分散運用（大型機の一時展開）

海上自衛隊の鹿屋航空基地に所属する固定翼哨戒機を母基地以外の民間空港に機動展開させ、燃料補給、訓練用模擬弾薬搭載等を実施する。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）（予備日１０月２０日（火）、１０月２９日（木））
【参加部隊】海上自衛隊：第１航空群　固定翼哨戒機（P-1）×１機

訓練予定場所

訓練イメージ

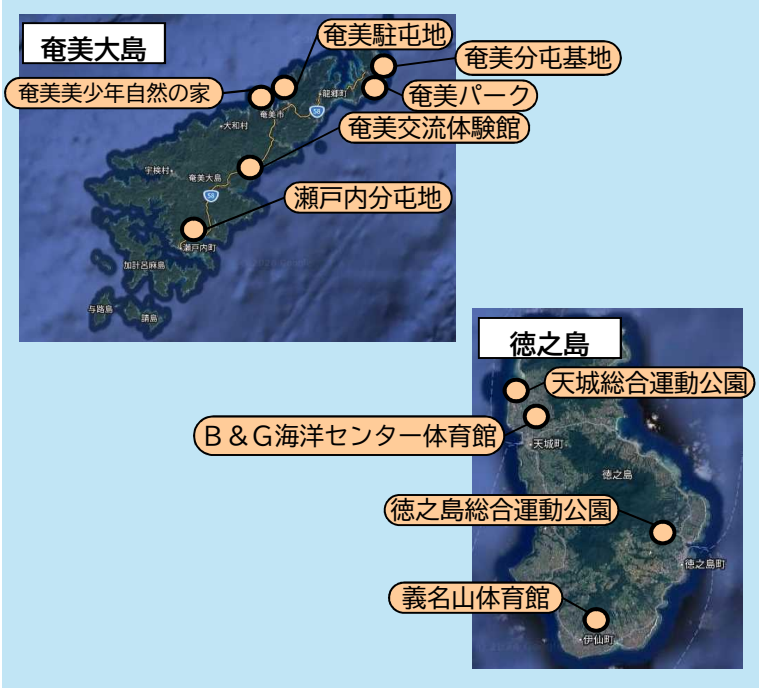
民間空港における弾薬搭載
（イメージ）

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
⑧　重要施設等防護（共同／協同基地等警備訓練）

奄美大島においては、陸上自衛隊の部隊が自衛隊基地等に展開し、基地警備訓練を実施する計画です。自衛隊施設内においては空包を使用し、夜間についても訓練を実施する計画です。
徳之島においては、陸上自衛隊の部隊が天城町総合運動公園及びＢ＆Ｇ海洋センター体育館等に展開し、施設防護訓練を実施する計画です。夜間についても、訓練を実施する計画です。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）～１０月２９日（木）　※前後約１週間程度の準備・撤収期間を設定
※　夜間訓練、空包使用を含む【Ｐ】
【参加部隊】　陸上自衛隊　北部方面隊、第８師団等
【訓練使用地域】奄美大島（約２００名）、徳之島（約１００名）
【訓練内容】　部隊展開、施設防護訓練、検問運営

訓練予定場所



訓練イメージ

部隊展開（船舶移動）

施設防護訓練

検問運営

施設防護訓練

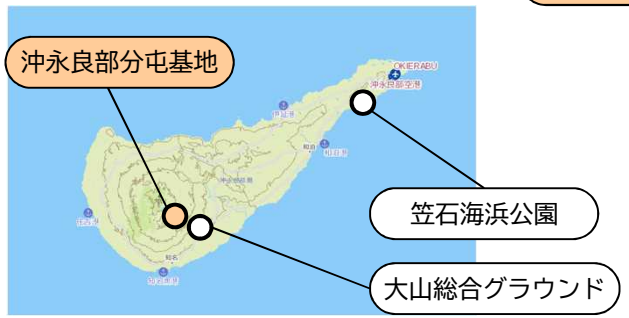
鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
⑧　重要施設等防護（共同／協同基地等警備訓練）

喜界島及び沖永良部島においては、陸上自衛隊の部隊が自衛隊施設等に展開し、施設防護訓練を実施する計画です。
自衛隊施設内においては空包を使用し、夜間についても訓練を実施する計画です。

【期　　間】令和８年１０月１９日（月）～２９日（木）　※前後約１週間程度の準備・撤収期間を設定
【参加部隊】陸上自衛隊：第８師団等
【訓練使用地域】喜界島（約１００名）、沖永良部島（約１００名）
【訓練内容】　　部隊展開、施設防護訓練

注：員数や参加部隊は現時点で計画中のもの

訓練予定場所



訓練イメージ

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
⑧　重要施設等防護（滑走路（被害）復旧訓練）

海上自衛隊の部隊が鹿屋基地において、滑走路（被害）復旧訓練を実施します。なお、爆破薬を使用した訓練は実施しません。

【期　　間】令和８年１０月２２日（木）～１０月２６日（月）　※前後約１週間程度の準備・撤収期間を設定
【参加部隊】海上自衛隊：第１航空群 約２０名、第２航空群 約１６名 第４航空群 約１６名
第３１航空群 約２０名

訓練予定場所

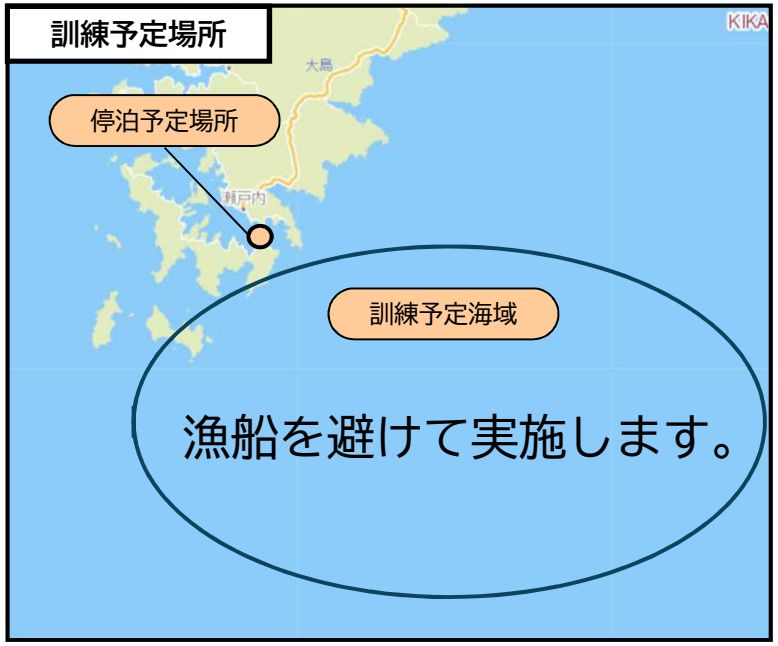
訓練イメージ

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容
⑧　重要施設等防護（立入検査訓練）

海上自衛隊、仏海軍の部隊が奄美大島付近海域において、ＶＢＳＳ訓練（立入検査訓練）を実施します。古仁屋湾において研究会を実施します。訓練は洋上で実施予定ですが、荒天時は古仁屋湾にて投錨することもあります。また、艦艇相互訪問、休養及びミサイル艇への燃料搭載のため、海自隊員及び仏海軍乗員が一部上陸します。

【期　　間】令和８年１０月２２日（木）～１０月２４日（土）　※前後約１週間程度の準備・撤収期間を設定
【参加部隊】海上自衛隊：第５哨戒防備隊、護衛艦（多用途護衛艦（FFM））×２隻、ミサイル艇×２艇、
多用途支援艦×１隻、油槽船×１隻　フランス海軍フリゲート、各艦艇の搭載ヘリ、各艦艇の搭載艇

訓練予定場所



訓練イメージ

海自：護衛艦

海自：多用途支援艦

海自：ミサイル艇

仏軍：フリゲート

海自：ＹＯＴ

立入検査訓練
（イメージ）